

令和3年度第2回焼津市総合教育会議議事録(概要)

1 開催日時 令和3年10月26日(火) 午後1時50分から午後3時50分まで

2 会場 黒石小学校

3 出席者

(構成員)

市長 中野弘道

焼津市教育委員会

教育長 羽田明夫

教育委員 大石智之 山竹葉子 河江富男 増田紀子

(関係者)

副市長 下山晃司

社会教育委員長 渡邊徹

(事務局)

教育委員会事務局長 櫛田隆弘、黒石小学校校長 宮澤礼子、黒石小学校教頭 小林伸生、教育総務課長 増田洋一、学校教育課長 池田純也、教育センター所長 小長谷恭彦、家庭・子ども支援課長 服部正宏、こども未来部長 渡辺晃子、学校教育課主席指導主事 福田陽子、教育センター主席指導主事 鈴木泉、家庭・子ども支援課主席指導主事 多々良博之、教育総務課総務担当主幹 進藤敬

4 内容

(1) 授業参観

(2) 協議事項等

- ・授業参観の感想
- ・焼津市GIGAスクール構想について
- ・家庭・子ども支援事業について
- ・その他

5 議事内容

別紙のとおり

宮澤校長	<p>【午後 1 時 50 分開会】</p> <p>1 校長より学校における取組みの説明 (説明概要)</p> <p>現在の児童数は、680 人余りで、少子化の中にありますが、今後数年間、児童数は、ほぼ横ばいが見込まれています。グランドデザインにおける学校教育目標は、「豊かな心で たくましく生きる子」、重点目標は、「自分で見つけ 考え行動する子」となっています。焼津市の教育大綱の「やさしく 強く 愛しい人」の具現化を目指し、本校児童の実態を考慮しつつ、「自分事として考え、主体的に取り組もうとする子」、「自分の考えを伝えたり行動に表そうとしたりする子」を目指し、「心づくり：生徒指導部」、「学びづくり：研修部」、「仲間づくり：特別活動部」の3つの部を核としながら、日々の教育活動を進めています。</p> <p>一人1台タブレットパソコンについては、検討を重ねて、全職員で取り組んできました。低学年では、写真を撮ったり、絵を描いたり、ウェブ上のアンケートにチェックを入れるなどの活動が行われています。中学年以上は、始業前の朝の時間に、タイピング練習のアプリによる習熟が進んでいます。</p> <p>また、ジャムボード機能を使い、グループで意見の交流を行ったり、画面上のイラストにチェックをつけて自分の考えをまとめたりしています。パソコンが一人1台あることで、子どもたち個々の実態やペースに合わせた学習が充実する場面が見られます。ICT研修やオンライン授業を通し、職員個々のスキルが向上しています。今後も、子どもたちにつけたい力をつけるためのツールとして、ICTを活用していきたいと思います。</p>
河江委員	<p>子どもたちの読書の状況はどうか。</p>
宮澤校長	<p>朝の時間に読書の時間の設定されていること、職員の図書館教育への意識が高いことなどから、子どもたちは大変よく読書をしています。</p> <p>(授業参観 3年生から6年生 各1クラス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年1組：社会科 焼津のまちを守るヒーローの正体は「地域の安全を守る」 ・4年3組：算数科 広さの求め方、見つけた「面積」 ・5年2組：社会科 日本の自動車産業の秘密を探れ「自動車の生産にはげむ人々」 ・6年2組：総合的学習の時間 夢のメッセンジャーになろう「地球を愛し、地球の未来を創り出す黒石っ子」

中野市長	<p>2 協議事項等</p> <p>(1) 市長あいさつ</p> <p>本日は、協議に先立ちまして、黒石小学校の授業を御参観いただきました。黒石小学校職員の皆様につきましては、大変丁寧な御対応ありがとうございました。また、新型コロナウイルス感染防止にあたり、夏季休業の延長、オンライン授業の実施、その後の分散登校など、生徒の学びを止めないための大変な御苦勞をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。なお、この後、委員の皆様より先程の授業参観の御感想をいただきたいと思ひます。また、焼津市GIGAスクール構想及び、家庭・子ども支援事業について、取組状況を説明いたしますので、御意見をいただきますよう、よろしくお願ひいたします。今後も、現場に即した施策を考えていきたいと考えておりますので、焼津市教育委員会と市が連携・協力し、より良い教育の方向性を見出すため、引き続き、御指導賜りますようお願い申し上げます。</p>
大石委員	<p>(2) 授業参観の感想</p> <p>以前、学校訪問で他の学校を参観しましたが、その時と比べて端末を使いこなしている感じがしました。また、端末内のアプリがいろいろあることを実感し、今後を楽しみに思ひました。プログラミング教育についても、今後端末がどのように活用されていくのか楽しみに思ひます。</p>
山竹委員	<p>ほぼ全員の児童について、作業ができており驚きました。また、全児童が授業に参加しているという印象を受けました。</p>
河江委員	<p>高学年が端末を使いこなしていることに驚きました。6年生の「夢のメッセンジャーになろう」という授業については、授業の内容に感動しました。その他の学年についても、授業を楽しんでいる様子が見えました。</p>
増田委員	<p>コロナの影響があつて不都合が多いと思ひますが、子どもたちが、安心、安定している姿が見られ、うれしく思ひました。端末に関しては、必要な写真をピックアップしたり、ふりかえりを一斉に表示するなどいろいろな使い方ができ始めているという印象を受けました。子どもたちが「つぶやき」をしたり、「反応」をしたり、友達の発言につなげる中で機器が活かされることが大事だと思ひました。</p>
羽田教育長	<p>子どもたちの端末の活用について、ずいぶん慣れてきている印象を受けました。今後、タイピングの習熟についても考えていく必要があるように思ひました。1人1台端末の活用によって、授業づくりの幅が一気に広がっています。また、「つぶやき」がとても多く、心が解放されている様子が見受けられまし</p>

中野市長	<p>た。これは、とても大事なことだと思います。間違いや失敗を恐れずに疑問を言える、そのような教室をもっとつくっていただきたいと思います。新型コロナウイルスの感染予防は必要ですが、対面や小集団の活動を積極的に実施していただきたいと思います。</p> <p>私も学校現場において、教育大綱の基本理念「優しく 強く 愛しい人」を育てる教育が着実に実践され、情報端末においても学びを深めるためのツールとして有効に、広く、深く活用されていることを実感しました。また、校長先生の説明にありました「主体的な取組」、「対話的」、「仕掛ける授業」について学校が一体となって取り組んでいることを感じました。</p>
小長谷教育センター所長	<p>(3) 焼津市GIGAスクール構想について (説明概要)</p> <p>1 ページ目は、9月1日～6日(7日) 基本的に一斉オンライン授業の実施と9月7日(8日)～10日、分散登校によるオンライン授業と対面授業の併用期間に行われた、端末を活用してのオンライン授業の具体例を、算数・理科・体育の3教科で上げてあります。オンライン授業について、子供の声と保護者の声は、課題ととらえている声を黒丸で示しています。オンライン授業についての良さや、感謝の声とともに、接続や、回線状況が悪くなった時に苦労したこと、また、オンライン授業をやってみて対面での授業の良さに気づいたという声がありました。また、教員の声として、活用への意識の高まりや基本的なスキルの定着、保護者のオンライン授業を含めた学校教育への理解の深まり、授業に活用するソフトの利点や問題点、また、今後のオンラインや通常の授業で活用するために、研修の充実を求める声がありました。</p> <p>2 ページ目は、「一人1台端末を使用した授業」の教員アンケート結果についてです。進捗状況は、夏休み前では、「毎日」「ほぼ毎日」と答える教員が17.8%、一方で「月に1日程度」「全く使っていない」と答える教員も26.5%いました。オンライン授業後には、「毎日」「ほぼ毎日」と答える教員が27.8%で10%増加しています。一方で「月に1日程度」「全く使っていない」と答える教員は18%で、8.5%減でした。この教員は、級外等の先生方です。続いて、具体的な活用の実態についてです。夏休み前と比べて、オンライン授業後に、ステップ1の段階表にある活用もしながら、ステップ2の段階にある活用をしている教員が、大変増えていることがわかります。その内容には後ほど触れますが、多くはclassroomにより、課題を配付したり、集めたりすることに活用した結果です。また、段階別による活用内容を、夏休み前に加えて、オンライン授業後に行うようになったことも、教員のアンケートの文章からまとめて表に記述してあります。この表からオンライン授業後に、同じステップの段階でも、活用方法が様々に広がっていることがわかります。これを受けて「オンラ</p>

	<p>イン授業の実施」と、「教員アンケートの結果」から明らかになった課題を3点にまとめました。1点目は、当初の計画と実態とのずれとオンライン授業の実施によりICT利活用が急激に加速したため、現在の「焼津市におけるICT活用計画（5年間）」を見直し、焼津市の利活用の実態を踏まえた新たな計画を策定する必要がでてきています。2点目は、安全安心な利用環境や情報モラル指導の再検討で、学校内だけでなく、今後家庭でも端末を活用した学習機会が増えることが見込まれるため、安全安心に利用するためのセキュリティ対策、情報モラル指導、環境整備等の見直しが必要となっていることです。3点目は、教員の研修の充実で、教員の端末活用に関する知識・技能を高めることや、ICTリーダーへの過重負担を減らすために新たなリーダーの育成に向け、さらなる研修機会を確保し、学校全体の指導力の向上を図る必要があることです。課題を受けて、今後の取組について2点にまとめました。</p> <p>まず、子どもたちの成長・学力保障のために最も重要なことは、「子ども同士・子どもと教員」の対面による教育活動であるという認識に立ち、教育大綱で示す子どもたちの育成に向けて、ICT教育をどのように生かしていくか明確にして、各学校での取り組みを推進してまいります。取り組みの1点目は、専門的知見を持つ外部業者に、利活用推進計画策定のコンサルティング業務を委託し、安全安心な利用環境の充実、研修の充実による教員の利活用の向上が図られるように、より充実した取組にしていくこと、2点目は、市内各学校で、ICT利活用を確実に推進していくために、教育委員会事務局において、専門的に事業を推進するための体制づくりを進めていくということです。</p>
大石委員	<p>端末利用に関して、子どもたちの対応スピードが早いという印象を感じています。課題の中の「ICT活用計画の見直し」と「推進体制づくり」は真っ先に必要になると思っていましたので、先進的に対応いただければありがたいと思います。これらを、今後のコンサルティング業務の委託や推進体制づくりの中で一緒に考えていただければよいと思います。また、ICTを活用して、先生方の負担の軽減が図れているのか、逆に対応に苦勞をして負担が増えているのか現状をおしえていただければと思います。</p>
小長谷教育センター所長	<p>端末に慣れない状況の中で、授業の組立てなどの準備について考えることは大変だと思います。一方、ふりかえりで子どもが入力したものが、一気に集計されることなどは負担の軽減になっていると思います。</p>
河江委員	<p>端末利用における子どもたちの格差へのサポートについておしえてもらいたいと思います。</p>

池田学校教育課長	<p>これまで授業に意欲的でなかった子どもたちが、端末を活用することで意欲が出てきたという声は聞いていますが、格差に関しての声は聞いていません。しかし、今後、高度な利用をしていくときに、抵抗感がある子どもが出てくる可能性はあるので、配慮をしていく必要はあります。</p>
山竹委員	<p>進捗状況のアンケートから、全体の使用頻度の割合は増えていますが、「月に2～3日程度」以下の割合は変わっていません。このことから、先生方の中で、利用が2極化しているように思います。活用の場面について検討する必要があるのではないかと思います。また、学校で使っているソフトを自宅のパソコンなどで使用できるでしょうか。</p>
小長谷教育センター所長	<p>全体的には、使用の頻度が増えていますが、2極化の現状はあると思います。先生方へのサポート体制の強化については、情報化の推進役を増やすための情報研修委員会などを実施しています。また、端末の持ち帰りができれば、学校で使用している「Classroom」のソフトを家庭で活用することは可能です。</p>
増田委員	<p>今後、端末を使用することが目的ではなく、教育活動の中で文房具と同じように活用されていくことが予測されます。そのためには、「いつでも ちょこっと 使う」ことが大事だと思います。子どもたちが使用する場面が広がるにつれて、セキュリティ面を含めて教師の負担が大きくなるように思います。「いつでも ちょこっと 使う」ことに対する現状をおしえていただきたいと思います。</p>
小長谷教育センター所長	<p>現在も、朝の検温の入力や昼食後の自主的なタイピング練習など、子どもたちが自由にタブレットに触れる状況はできているように思います。セキュリティに関しては、教育委員会事務局内にも詳しい職員がおりますが、専門的な知見からのアドバイスが必要であることから、コンサルティングを委託してアドバイスを受ける必要があると思います。</p>
羽田教育長	<p>河江委員、増田委員の御意見にありました子どもたちのスキルを高めるためには、できるだけ端末にさわる場面を増やしていくとともに、支援員によるフォローが必要だと思います。山竹委員の御意見にあった教師の使用に関しては、研修はもちろん、校内での声掛けが大事だと思います。</p>
山竹委員	<p>パソコンの予測変換機能に慣れると字が書けなくなったり、言葉が出なくなっていくことがあるように思います。これに対する対応はされていますか。</p>

池田学校教育課長	国語の授業で、「書く」作業があります。また、端末は、あくまでも道具として使うものであると考えます。
中野市長	焼津市でもDX推進計画によりDXの活用を推進しており、外部の専門家に相談できる体制をとっていますので、GIGAスクール構想について教育委員会で対応が難しい部分について、応援していきたいと思います。
服部家庭・子ども支援課長	<p>(4) 家庭・子ども支援事業について</p> <p>本年9月末までの支援状況についてご報告いたします。</p> <p>まず、「支援を実施している児童生徒数」です。家庭・子ども支援事業では、不登校児童生徒を抱える家庭への「はじめの一步」、経済的な問題を抱える家庭への「ささえて一步」、学校生活に不安を抱える家庭への「いっしょに一步」という訪問型支援を実施しております。「はじめの一步」は、令和2年度末で51人、高等学校等への進学により4人の支援が終了し、4月以降の新規が27人で、9月末現在74人を支援しております。「ささえて一步」は、令和2年度末で2人、4月以降の新規が3人で、9月末現在5人を支援しております。「いっしょに一步」は、令和2年度末で5人、高等学校等への進学により1人の支援が終了し、4月以降の新規が4人で、9月末現在8人を支援しております。</p> <p>次に「支援対象として候補に挙げられた児童生徒数と支援対象とした児童生徒数」です。令和3年度9月末までの状況についてご説明します。学校から候補に挙げられた児童生徒数は86人で、そのうち支援対象となった児童生徒数は27人でした。保護者からは5人相談があり、その5人は支援対象となっております。学校からの86人のうち、当課から各校に依頼した支援対象家庭調査で挙げられてきた人数は72人になります。こちらにつきましては、当課の指導主事が各校と打ち合わせを行い、個々の児童生徒の状況を共有・検討しております。支援対象調査では、気になる児童生徒を幅広く上げてもらっておりますので、今後支援を依頼する可能性があるという情報提供が多い状況です。なお、学校や保護者から直接依頼があったものは、全て支援対象として受理し、対応しております。</p> <p>次に「家庭訪問等の実績」です。令和3年度9月末までの状況についてご説明します。学校や関係機関と行ったケース会議が70回、家庭訪問で行った児童生徒の直接支援が161回、公民館や学校等で行った児童生徒の直接支援が103回、保護者との面談が129回でした。支援対象家庭が増えたことにより対応回数が全体的に増えております。学校や関連機関との連携や保護者との面談を、密に行っております。支援対象として受理しましたが、児童生徒本人への直接支援に至っておらず、定期的に保護者と面談をしているものもあります。児童生徒の状況によって直接支援できない場合もあり、関連機関と相談をしながら時間をかけて支援を継続していきたいと考えております。</p>

「ささえて一步」は、令和2年度末で2人、4月以降の新規が3人で、9月末現在5人を支援しております。絶対数としては少ないながらも増えてきている状況であり、これから重要な支援になっていくものと考えております。

具体的な事例の紹介です。①「大井川市民サービスセンターと連携して支援した事例」です。母子家庭で、学校に行けない本児の面倒やコロナの影響で仕事ができず、経済的困難を抱えておりました。最初の保護者面談で、母親から経済的な不安があることや児童扶養手当が減額されることについて、相談がありました。そこで、まず、指導主事が大井川市民サービスセンター職員から助言を受け、そして家庭訪問時に母親に書類作成の手順や相談の仕方を伝えました。その結果、母親は大井川市民サービスセンターで手続きをすることができました。その際、経済的に苦しいという相談もし、児童扶養手当以外の援助にもつなげることができました。②「子育て支援課と連携して支援した事例」です。母子家庭で、お子さんは不登校、母親は精神的に不安定で行動力も無く、就労していない状況でした。指導主事との面談の際、児童扶養手当が減額されていることについて母親から相談がありました。指導主事は、担当課である子育て支援課職員と母親への対応の仕方を細かく打ち合わせを行いました。母親には携帯電話もなく、市からも学校からもなかなか連絡が取れない状況もありました。そのため、指導主事は学校とも打ち合わせを行い、母親が来校した時に、教員が母親に学校の電話で子育て支援課に連絡を取るよう促すようにし、手続きに導くことができました。③「こども相談センター、子育て支援課と連携して支援した事例」です。母子家庭で、母親は精神疾患で仕事をしていない状況です。手続きが面倒という理由で就学援助も受けておりません。諸会費の滞納額も高額になることが想像されました。指導主事は、こども相談センターと子育て支援課に相談し、援助の方法についてアドバイスを受けました。その後、指導主事はスクールソーシャルワーカーとともに家庭訪問を繰り返し、ようやく母親から経済的な困り感を聞き出し、母親は指導主事からの助言により、児童扶養手当の手続きを子育て支援課で行うことができました。

次に「ささえて一步の今後の取り組み」です。ささえて一步で支援を行っているものの多くは、はじめの一步（不登校の支援）として受理している家庭です。不登校児童生徒の家庭に限らず、ささえて一步の支援を要する家庭はまだあると思われます。当課としては、上記のような事例を各校に紹介し、支援を要する家庭を掘り出していきたいと考えております。また、併せて、関連機関と連携し支援の方法を研究していきたいと考えております。

山竹委員

家庭訪問等の実績の中で面談の回数などが大きく伸びていますが、職員の負担が大きくなっていませんか。

服部家庭・子ども支援課長	「保護者と面談した回数」について、令和2年度は、家庭での面談回数を含んでいませんが、全体の回数は増えています。また、「公民館や学校等で児童生徒を直接支援した回数」は大きく増えています。このようなきめ細かい支援ができるようになったのは、指導主事の人数増と青少年教育相談センターの協力によるものです。また、家庭から少しずつ外へ、という指導主事の指導のあらわれだと思われま。
河江委員	「ささえて一歩（経済的な問題）」と「いっしょに一歩（学校生活への不安）」について、「はじめの一歩（不登校）」との関係はどうですか。
服部家庭・子ども支援課長	集計については、「はじめの一歩（不登校）」の児童生徒の中に、経済的な問題や学校生活の不安がある児童生徒も含まれています。
大石委員	「いっしょに一歩（学校生活への不安）」の令和3年9月末の8名は、いじめなどの問題が絡んでいるのでしょうか。
服部家庭・子ども支援課長	保護者と学校との関係がうまくいかず、家庭・子ども支援課に相談があった件数となります。
大石委員	それでは、不登校の児童生徒だけではないということでしょうか。
服部家庭・子ども支援課長	不登校の児童生徒も含んでおりますが、保護者と学校のコミュニケーションがうまくとれていないケースとなります。
大石委員	家庭訪問等の実績については、支援対象として候補に挙げた児童生徒が対象であるということによろしいでしょうか。
服部家庭・子ども支援課長	そうです。
羽田教育長	近頃、不登校の児童生徒が増えているという国からの発表がありました。このようなことから、家庭・子ども支援課の事業は必要性が増しているように思います。ただ、報道等には出てきませんが、不登校の児童生徒を減らすためには、焼津市の教育大綱にあるように、「たくましい強さを持った子ども」を乳幼児期から育てていく必要があるように思います。
増田委員	最近、他者とのコミュニケーションがうまくできない子ども、保護者が多くなっているように思います。「人との豊かな関わり」が教育大綱にある「強

中野市長	<p>さ」につながると思います。また、家庭・子ども支援事業に関して、2、3年ぐらい前までは、学校が主に抱えて対応していたことであることから、学校が子どもに向かう時間、教師が教育に向かう時間を保証するという意味からも必要性の高さを感じます。</p> <p>焼津市はモンゴルと交流しており、モンゴルに行った時に、子どもや家庭、国、地域を思う「こころ」の強さを感じました。家庭・子ども支援事業をはじめ、焼津市の教育は、人が子どもをつくることが主であると思います。</p> <p>家庭・子ども支援事業については、ICTの活用が進んでも、人の手が必要な分野であると思っています。組織面でも人員の強化を充実していきたいと思っています。</p> <p>(5) その他 ＜質問・意見なし＞</p> <p>(6) 連絡事項 次回開催予定時期を説明 第3回目の会議は、令和4年2月22日（火）に開催し、本年度のまとめをさせていただくとともに、次年度の協議事項について御意見をいただきます。</p> <p>4 閉会</p> <p>【午後3時50分閉会】</p>
------	--